

外国語活動の授業で手品(マジック)を導入する試み

—— コミュニケーションの手段としての手品(マジック)のあり方 ——

石 濱 博 之*, 藪 下 克 彦*

(キーワード：手品，外国語活動，児童による自己評価)

I. はじめに

平成23(2011)年度から公立小学校で外国語活動が必修化された。公立小学校の高学年において年間35時間の外国語活動が導入されて、様々な外国語活動の教育実践がなされている。平成32(2020)年度から、小学校高学年では教科としての英語が導入されて、中学年では外国語活動が本格的に開始される。

平成21年に告示された現行の学習指導要領の外国語活動編では、「外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」こととしている。コミュニケーション能力の素地を養うことのために3つの柱で構成されている。それは、① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める、② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る、③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる こととなっている。

②で示されているとおり積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に関しては、外国語活動の授業の中でどのように育成していくかは重要である。

本稿では、平成23年度から必修化された外国語活動の授業の中で、コミュニケーションの一つの手段として手品(マジック)を取り入れて、外国語活動における手品(マジック)のあり方を示すものである¹⁾。

II. 教育における手品(マジック)の導入に関する先行研究

熊田(2012)によれば、「認知心理学にもとづく説明を考えてみるならば、マジシャンが手技や道具に付属した仕掛けを用い、言語学的あるいは非言語学的な手がかりによって観客の注意を誘導し、物理学的、生物学的に不可能な事象があたかも生じたように観客に知覚させ、また、それによって観客を驚かせたり楽しませたりする芸能の一種」(p. 14)というようにマジック(手品)を定義づけている。そして、マジックには「人間の注意を誘導すること、とくに注意を向けてほしくない部分から注意をそらす「ミスディレクション (misdirection)」と呼ばれる技術が最も重要であるといわれている」(p. 14)としている。

河合(2004)によれば、マジックは約6000年前のエジプトで発祥されたと言われており、日本では奈良時代に中国から伝わった。その後西洋のマジックが導入され、どんどん成長していったとされている。また、「マジックは子どもから高齢者まで幅広く、人の心を楽しませるものを持っています。マジックは世界共通の文化です。どこの国の人もマジックの不思議さ、楽しさを理解することができます。マジックは知的でユーモアに満ちた遊びです。... マジックはコミュニケーションの道具として使えます。」(p. 3)としている。更に、河合(1991, 1992)は、小学生、幼稚園児を対象として手品の手ほどきと実演をした後に、アンケートを実施して、手品(マジック)の効用についてまとめている。その結果は、子どもは「マジックを見ることが好き」としている。小学校の中には、自分でもマジックをしてみたいという子どももいたと示している。そして、「マジックによって人を感動させることができれば、これもまた素晴らしい人づくりの一面になるのではないか」(pp. 11-12)と結論づけている。

次に、梅本(2010)は、大学の英語教育の中でマジックを利用した実践経験を基にして、小学校英語教育の中にマジックを利用することの可能性と3つの利用可能性を記述している。ただし、梅本は、小学校英語教育にお

*鳴門教育大学言語系コース

いてマジックの導入を提案しているが、実際にはマジックを活用した教育実践はしていない。

梅本（2010）は、「(1) 英語の学習はやはり児童に興味を持ってもらうこと、英語が好きになってもらうことが肝要であろう。その意味だけでも、英語の授業でマジックを行うことは価値がある。英語の勉強は好きこそものの上手なれという面が強いであろう。(2) 英語の学習には具体的なイメージを持つことが大事である。マジックは目に訴えかける割合が大きいので、強く頭の中にイメージが残りやすいと考えることができる。この立場では説明は演繹的にするのではなく、帰納的にすることを重要視している。大きなコンテキストで見れば、言語習得はトップダウンで行われるよりも、ボトムアップで行われるものであるという考え方に準拠していると言える。(3) マジックで英語を理解することは従来の英語の理解よりもワンステップ根源的な理解へと進む可能性を有しているだろう。」(p.9)というように3つの利用可能性を提案している。また、外国語活動を導入した場合、6つの概念で活用できる具体例（1. 他動詞の概念と自動詞の概念の峻別、2. 数を教えること、3. 色を教えること、4. 形容詞を教えること、5. 否定の概念、6. 単数と複数の概念）を示している。マジック（手品）を活用して楽しく学習させて、英語に興味・関心を持たせることができるであろうとしている。

次に、子どもの探究心を刺激するために、教科との関係で言えば科学（理科）、体育、及び算数における、手品の導入を紹介している著書は出版されている（後藤、1998、1999；東京大学奇術愛好会（監修）、2009；庄司、2013）。しかしながら、小学校の外国語活動における手品（マジック）を導入したという実践事例は皆無であろう。

先行研究の中に教育との関連では、手品の楽しさが述べられている。要するに、手品（マジック）を外国語活動の授業に導入することで外国の文化的視点にも触れることができることも楽しさの一つになると考えられるであろう。また、手品をとおして演者と観客との間でコミュニケーションをとることができるであろう。言い換えれば、外国語活動に手品を導入することで、教師と児童の間で英語を使ってコミュニケーションをとることができる可能性がある。以下、本稿では、手品とマジックを同義語として扱う。

Ⅲ. 外国語活動における手品の提示

3.1 J 市立 M 小学校の外国語活動と手品

新潟県 J 市立 M 小学校は小規模な小学校である。5 年生と 6 年生はそれぞれ 10 名前後であるために、外国語活動では 5 年生と 6 年生を合同で指導した。石濱は、上越教育大学の地域貢献の一環として平成 22 年度から J 市立 M 小学校に関わりあい、学級担任と共に高学年全体の外国語活動を推進してきた。平成 23 年度から年間活動計画を 2 年間単位（表 1、表 2）で編成させて、2 年間をとおして児童に『Hi, friends! 1, 2』の内容を提供することとした。2 年間でコミュニケーション能力の素地を育成することをねらいとした。ある年度によっては、5 年次に『Hi, friends! 2』を学び、6 年次に『Hi, friends! 1』を指導する場合もありえる。2 年間の外国語活動の中に手品の活動を導入した（石濱、2013）。また、平成 25 年度から 2 年間の年間活動計画の中に「書くこと」を取り入れたアルファベット学習を導入しようと試みた。平成 25 年度・26 年度に本格的にアルファベット学習を

表 1 平成 23 年度年間活動計画

No.	平成 23 年度の話題一覧	時数
1	あいさつをしよう	2
2	体調はいかが？	2
3	誕生日はいつ？	4
4	好きなスポーツ	2
5	1 学期のまとめ	1
6	1 学期の復習	1
7	出身地はどこですか？	3
8	〇〇（果物）は好きですか？	2
9	行きたい国はどこですか？	3
10	今何時ですか？	4
11	できることを紹介しよう	4
12	お寿司屋さんに行こう	4
13	1 年間の学習を振り返ろう	2

表 2 平成 24 年度年間活動計画

No.	平成 24 年度の話題一覧	時数
1	あいさつをしよう	2
2	数を数えよう	3
3	自分の好きなものを紹介しよう	5
4	アルファベットを学ぼう	2
5	1 学期の振り返り	1
6	1 日の生活	6
7	時間割を作ろう	6
8	好きな季節は？	2
9	文房具屋さんごっこをしよう	5
10	将来の夢は？	3
11	1 年間の学習を振り返ろう	1

取り入れたばかりでなく、できる限り新しい手品を取り入れた活動も継続した(石濱・山崎・南雲, 2015a)。

そして、実際の指導では、学級担任、ALT、及び石濱によるチーム・ティーチングを原則とした(石濱, 2015b)。

単元構成を考慮する際と授業を展開する際には、学級担任、ALT、及び児童にも容易に外国語活動に取り組めるように「授業の固定化」を推進した(石濱・藤田, 2008; 石濱・渡邊, 2013; 石濱・山崎・染谷, 2014; 石濱, 2015b)。外国語活動の授業を展開する際、子どもが「(内容が) わかれば、楽しく」主体的に活動するという指導原理に基づいて、「①あいさつ→②復習→③モデルの提示→④オーラル・ワーク(チャンツも含む)→⑤グループ・ワーク、ペア・ワーク→⑥ゲームの活動→⑦歌の活動→⑧発表→⑨別れの言葉」というに授業の枠組みをある程度固定した。そして、指導の中で様々な形態の反復(繰り返し)練習を多く取り入れながら、主に音声重視して「ねらい」とする話題や言語材料の定着を図ろうとした(石濱・藤田, 2008; 石濱・渡邊, 2013; 石濱・山崎・染谷, 2014; 石濱, 2015b)。最終的に、各々の児童に自信を持って題材の言語材料を表現させたからである。そして、おおよそ4時間の単元構成における活動内容に関して、「聞くこと」と「話すこと(言うこと)」の活動の割合をおおよそ図1のように構成した。

本実践では、固定化された授業のおおよそ中間ぐらいに、クラス全体の雰囲気や和ませるために5分間程度の手品の活動を取り入れた(付録1:指導事例)。

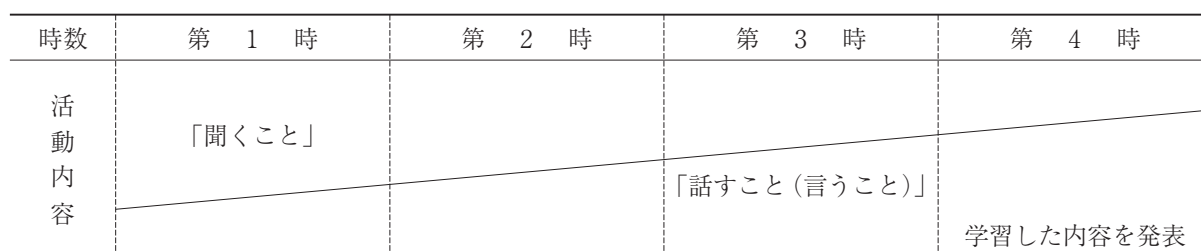


図1 単元構成内の活動内容(特に「聞くこと」と「話すこと(言うこと)」の活動の割合)

3.2 外国語活動で取り入れた手品の活動

3.2.1 手品の活動の内容

本実践で使用した手品の品目を記述する。平成23年度は、年間36時間の外国語活動の中で13回の手品の活動を取り入れた。手品には、ロープのマジック、(シルク)ハンカチのマジック、コインと紙幣のマジック、トリックカードマジック、数理マジックなどの種類がある。その様々な種類の手品から、できる限り外国語活動の話題に即して、容易にできる手品を採用した。英語を使って児童とのやりとりをしながら、手品の活動ができることをねらいとした。主に、ロープのマジック、(シルク)ハンカチのマジック、コインのマジック、紙のマジックを選択した。実際には、手品の品目は表3のとおりである。

表3 手品の品目と話題

No.	日 付	手品の品目	平成23年度の話題一覧
1	平成23年 4月28日	ボトル缶釣り	あいさつをしよう
2	平成23年 5月12日	腕を通り抜けるロープ(紐)	体調はいかが?
3	平成23年 5月19日	ロープとリング	体調はいかが?
4	平成23年 5月26日	カードから紙幣	誕生日はいつ?
5	平成23年 6月 2日	シルクとロープ	誕生日はいつ?
6	平成23年 6月 9日	ストローアクロバット	誕生日はいつ?
7	平成23年 6月16日	ロープとシルク	誕生日はいつ?
8	平成23年 6月30日	インスタントフェニックスカード	好きなスポーツ
9	平成23年 7月 7日	お金のリピート	好きなスポーツ
10	平成23年 7月14日	キャップはペットボトルに入れる	好きなスポーツ
11	平成23年 9月29日	連理の白紙	出身地はどこですか?
12	平成23年10月 6日	不可能な貫通	出身地はどこですか?
13	平成24年 1月19日	洗濯ばさみカードあて	できることを紹介しよう

3.2.2 選択した手品の手順

平成23年度の外国語活動に取り入れた手品の手順を記述する。

(1) 「ボトル缶釣り」(平成23年4月28日)

- ① ボトル缶と一本の紐を見せる。
- ② ボトル缶にも紐にも仕掛けがないように示す。
- ③ 紐を真ん中の手前で丸く折り曲げる。
- ④ ボトル缶の飲み口の穴に丸く折り曲げた紐を挿入する。
- ⑤ ボトル缶を紐でつり上げる。
- ⑥ 誰かに手のひらを差し出してもらう。
- ⑦ その手のひらに紐でつり上げたボトル缶をのせる。
- ⑧ ボトル缶からつり上げていた紐を取り出す。
- ⑨ 再度、ボトル缶にも紐にも仕掛けがないように示す。

(2) 「腕を通り抜けるロープ(紐)」(平成23年5月12日)

- ① 相手の腕を通して輪になった紐をかける。
- ② かけ声(One, two, three・・・)と共に、親指で一方の紐をかける。
- ③ 腕を通り抜けたように見せる。
- ④ 腕のところに押したようにしてから、元に戻す。
- ⑤ 腕を貫通して、紐を取り外したように示す。

(3) 「ロープとリング」(平成23年5月19日)

- ① ロープの真ん中に磁石が入っている。そのリングとロープを用意する。
- ② 一方の手にロープを持ち、もう一方の手にリングを持って、それらを見せる。
- ③ ロープをリングに通すような格好をして、リングを磁石で留める。
- ④ ロープでリングを吊すような格好をして、ぶらぶらする。
- ⑤ かけ声(One, two, three,・・・)
- ⑥ 一方の手でリングを持つ。
- ⑦ 息を吹きかけるようにして、リングとロープがはずれるように示す。

(4) 「カードから紙幣」(平成23年5月26日)

- ① 一方の手に100円玉を入れる。
- ② 表に何もないことを示す。
- ③ 千円札を手で隠さないようにする。
- ④ トランプに挟む。
- ⑤ 真ん中に100円玉を入れる。
- ⑥ 外に出す。
- ⑦ 千円札を入れているものをとる。
- ⑧ トランプの真ん中に入れる。
- ⑨ 入ったものを確認する。
- ⑩ トランプから外に外す。

(5) 「シルクとロープ」(平成23年6月2日)

- ① 短いロープ(紐)と長いロープ(紐)を絡ませて、2本のロープ(紐)を持っているように見せかける。
- ② ロープ(紐)で輪を作る。
- ③ シルクを入れる。
- ④ ロープを絞って、シルクを留める。
- ⑤ シルクを片一方に移動させる。

- ⑥ 長いロープを短いロープの方に持って行く。
 - ⑦ ロープで輪を作る。
 - ⑧ シルクを挿入する。
 - ⑨ 短いロープと長いロープの端を持って、ハートの形を作る。
 - ⑩ 片方のロープをはずして、中央部分にシルクがある。
 - ⑪ ロープの両端を引っ張る。
 - ⑫ ロープは一本になり、2枚のシルクははずれる。
- (6) 「ストローアクロバット」(平成23年6月9日)
- ① 2本のストローを十字にする。
 - ② 結びつけるように(実際には結んでいない)ストローを曲げる。
 - ③ お話をしながら、それぞれのストローをはずす。
- (7) 「ロープとシルク」(平成23年6月16日)
- ① 手にロープを二回巻く。
 - ② そこで下にロープを引っ張る。
 - ③ しっかりと縛る。
 - ④ 手のひらの長いロープをもう一つのロープの中に通して、反対側にする。反対側のロープを手前に持ってくる。
 - ⑤ ちょうど結んでいる(実際には結ばれていない)ところを親指で押さえる。
 - ⑥ シルクを入れる。
 - ⑦ しっかりシルクを留める。
 - ⑧ あたかも結ばれているようにする。
 - ⑨ 両端を引っ張りシルクを落とす。
- (8) 「インスタントフェニックスカード」(平成23年6月30日)
- ① 両面テープでポケットをつけたA3サイズの同じ模様の用紙を2枚用意する。
 - ② 1枚の用紙を8分の一に折る。
 - ③ ②の一部を使い、6枚のカードに切ってそれらをバラバラにする。
 - ④ 自分の方に6枚のカードを持って、(ポケットが作ってある)折りたたんだ他の1枚の上に重ねる。
 - ⑤ 6枚のカードを反対側(裏側)に置き重ねていく。
 - ⑥ 6枚を反対側(裏側)においたら、これ以上ないことを示す。
 - ⑦ おまじないをする。
 - ⑧ 6枚だけ折ったままにしておき、もう一枚の用紙を出すようにする。
 - ⑨ 他の1枚の用紙の真ん中に6枚のカードを入れる。
 - ⑩ すべてポケットに入れたら大きく開く。
 - ⑪ バラバラの6枚のカードが1枚のカードになったことを示す。
- (9) 「お金のリピーター」(平成23年7月7日)
- ① (相手に紙幣が見えないように)自分の側に(3枚の)カードを並べる。
 - ② いくらか数える。
 - ③ 6枚あり、6万円となる。
 - ④ 入っている紙幣から3枚取り出す。
 - ⑤ いくらかになったかを数える。
 - ⑥ 最後に入っているカードを自分の側に持ってくる。
 - ⑦ 3枚取り出す。
 - ⑧ 6枚数えて6万円である。
 - ⑨ 数える。

⑩最後に、6万円から15万円になりました。

(10) 「キャップはペットボトルに入れる」(平成23年7月14日)

- ① 蓋を閉めたペットボトルを見せる。
- ② ペットボトルに切れ込みを入れておく。
- ③ 蓋を取って何もないことを示す。
- ④ ペットボトルの飲み口から蓋を入れようとするが入らない。
- ⑤ ペットボトルの切れ込みのところに蓋をもってくる。
- ⑥ 切れ込みから蓋を入れる。
- ⑦ 蓋がペットボトルに入ったことを示す。

(11) 「連理の白紙」(平成23年9月29日)

- ① 菱形の形をした12枚の紙を作成しておく。
- ② ①で作成した紙を半分に折った半紙の中に入れておく。
- ③ 一枚の半紙を半分に折る。
- ④ 1 cm 程度を残して、はさみで切る。
- ⑤ 更に半分に折って、1 cm 程度残した方からはさみで切る。
- ⑥ 3分の1程度のところを折って、⑤で1 cm 程度残した方からはさみで切る。
- ⑦ 更に3分の1程度のところを折って、⑥で1 cm 程度残した方からはさみで切る。
- ⑧ 切ったものが菱形模様でつながっている。
- ⑨ 菱形を1枚ずつ破りながら数えて、半紙に置く。
- ⑩ 破った菱形を置いた半紙を見せる。
- ⑪ 半紙の上に置いた菱形と半紙の中に入っている菱形の紙を上から下にスライドさせて取り出す。
- ⑫ 上から菱形の紙を数える。その際、一連の菱形の下に置いていく。
- ⑬ 下にある一連の菱形の紙まで数えたら、その一連の菱形の紙を示す。
- ⑭ その際に、下の切り取った菱形の紙を箱の中に入れる。
- ⑮ 一連の菱形の紙を見せて、箱の中に切り取った菱形の紙が残る。

(12) 「不可能な貫通」(平成23年10月6日)

- ① 親指と人差し指で輪ゴムを使い、左右それぞれ輪っかを作成する。
- ② クロスして輪ゴムを通して、絶対にとれないことを示す。
- ③ 一方の輪ゴムの片方を人差し指と中指で挟む。
- ④ 輪ゴムを挟んでいる輪ゴムの中に、人差し指の頭を入れる。
- ⑤ 両手をくっつけて、2つの輪ゴムを離す。

(13) 「洗濯ばさみカードあて」(平成24年1月19日)

- ① 4枚の7のカードを取り出す。
- ② 4枚のカードをシャッフルする。
- ③ 当方に分からないように、1枚のカードを選んでもらう。
- ④ そのカードを反対向きにして、3枚の中に入れる。当方は選ばれたカードはわからない。
- ⑤ 4枚のカードをシャッフルする。
- ⑥ 該当するカードのみをロープに接触させて、洗濯ばさみで留める。残りの3枚はロープとのあいだに空間を入れて、洗濯ばさみで留める。
- ⑦ ロープを引っ張り、ぐるぐる回す。
- ⑧ 引いたであろうカードのみあがってくる。
- ⑨ そのカードかどうかを確認をさせる。

3.2.3 手品の活動における英語によるやりとりの例

「シルクとロープ」(平成23年6月2日)と「連理の白紙」(平成23年9月29日)における英語を使いながら児童とのやりとり例である。また、写真1及び写真2は教室内での手品の活動の様子を示したものである。

T: Teacher, C: Children

(1) 「シルクとロープ」の英語による手品の活動のやりとり例

T: Now I am going to do a magic trick for you.

How many ropes do I have?

C: Two (ropes).

T: That's right.

What color?

C: It's red.

T: What color?

C: It's white.

T: Good. What shape is this?

C: It's a heart.

T: Let's count from one to three together.

T & C: One, two, three.

T: How many ropes are there?

C: One rope.

T: The magic trick is over.

(2) 「連理の白紙」の英語による手品の活動のやりとり例

T: This is a piece of paper. Now I am going to cut it with a pair of scissors.

How many pieces of paper do I have?

C: Two.

T: Now I am going to fold them and cut them.

How many diamonds do I have? Let's count the diamonds.

T & C: One, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten, eleven, twelve.

T: Twelve diamonds.

T: Let's count them again.

T & C: One, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten, eleven, twelve.

T: O.K.. (「エイ、エイ、オウ!」) The magic trick has been completed.



写真1 シルクとロープの手品の様子



写真2 ロープの手品の様子

IV. 手品を導入した授業実践の成果

4.1 研究の目的

1. 外国語活動における手品の導入，及び話題と手品の関連を示すことである。
2. 児童の自己評価の反応から，外国語活動における手品の活動の効果を明らかにすることである。

4.2 調査参加者

上越教育大学の地域貢献の一環として，J市立M小学校は週1回45分授業を実施した。児童は，学級担任とALTと石濱のティーム・ティーチングによる授業の中で手品の活動を受けている。この調査参加者は，5年生と6年生の計24名である。

4.3 調査方法

本実践の調査は，36回目の授業を実施した後，自由記述の「振り返り用紙」（表4）を用いて実施した。自由記述に関しては，授業の感想や手品（マジック）についてどう感じたかを自由に書かせた。この自由記述を分析して，外国語活動における手品の効果について検証した。

表4 調査用紙の内容

1年間の反省：外国語活動の授業について感想を書きましょう。
 よかったこと，やりたかったこと，こうすればよかったことを中心に書きましょう。
 また，手品についての感想も書きましょう。

4.4 分析方法

外国語活動の授業や手品について記載されている自由記述を処理した。特に，手品のみに関する箇所については，KJ法を用いて自由記述を分類し検討した。また，IBM SPSS Text Analytics for Surveys Ver. 24を用いてテキストマイニングをした。その際，手品を含む外国語活動についての自由記述をカテゴリー別に分類して分析を試みた。

V. 結果と考察

5.1 KJ法の結果

児童の自由記述（特に，手品の授業について思ったこと）のキーワードで分類すると「楽しさ」，「驚き」，「面白さ」，及び「やりたい」にまとめることができた。表5はKJ法を使いキーワードごとに児童の感想をまとめたものである。

KJ法の分類から，児童は外国語活動の中に手品を取り入れた授業を「楽しい」と記述している。そして，手品それ自体に「驚いている」ことが推察できるであろう。また，手品の中身が「面白く」て楽しいと感じながら，児童は英語を学びたいと思っているのであろう。

この結果から，外国語活動の授業にコミュニケーションの手段として取り入れた手品に関しては，多くの児童は手品の活動を楽しんでいる。一連の手品の手順に驚きを感じている。そして，もっと外国語活動の授業をやりたいと思っているであろう。すなわち，手品を外国語活動に導入することで，児童の興味・関心を引き出すことができる可能性があるだろう。

次に，図2は，手品の自由記述を含めた外国語活動に関するテキストマイニングによるカテゴリーの関連性の結果である。5回以上の出現頻度がある用語をカテゴリー化した。5回未満の出現頻度の用語については，5回以上の出現頻度の用語と関連していれば，該当する5回以上の用語のカテゴリーに組み込んだ。おのおののカテゴリーがどのように関連しているかについては，最終的にサークルレイアウトを用いて示した。

「英語」と「手品」と「楽しさ」に強い関連性がある。英語を使いながら手品を示すことは楽しいことを示唆しているのであろう。

表5 KJ法による自由記述の分類化

分類	記述
楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・マジックも見たくて、とても楽しみにしていた。 ・手品は毎週楽しみでした。 ・外国語の勉強も、どちらもとても面白かったし、楽しかったです。 ・外国語活動で先生の手品が楽しみでした。外国語活動も楽しく手品も楽しかった。 ・手品の時間は、いつも楽しみでした。英語の時間は、いつも楽しかったです。 ・先生のやったださるマジックを毎回楽しみにしていたので、やったださるときはとてもうれしかったです。 ・手品も少しだけであまりやらなかったけれど、見ていると楽しくて全く仕掛けがわかりませんでした。 ・楽しかったです。 ・手品はタネがわかるものもあり、楽しかったです。
驚き	<ul style="list-style-type: none"> ・手品はいろいろな手品があり、とてもすごいと思いました。 ・手品もすごかったです。 ・先生はすごいなあと思いました。マジックや英語を教えてくださいました。 ・手品も見ました。とてもすごくて感動しました。 ・手品はとてもすごくてびっくりしました。 ・とてもすごかったので、またやってほしいなあと思いました。 ・全く手品のネタがわかりませんでした。すごくうまかったです。 ・先生の手品はとてもすごいです。 ・手品はとてもすごかったです。 ・先生のマジックはびっくりしました。 ・先生の手品で一番すごいと思ったのは、ひもを使った手品です。 ・手品はとてもすごかった。 ・手品は難しいものもあったけれど、失敗せずにしていたのですごいなあと思いました。 ・手品は一見わかりそうだけれど以外にタネが全然わかりませんでした。いつも驚いてばかりでした。 ・先生のマジックは、いつもどのようにやるのか、わかりませんでした。ヒモを使ったマジックがとてもすごかったです。
面白さ	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の授業は、手品を交えてやっていたのでとても面白い。 ・簡単そうにやっているけれど、わからなくて悔しいし、面白かったです。 ・手品も楽しくて面白い手品ばかりでした。 ・マジックは、色々あって面白かったです。 ・マジックは、全部難しいものばかりで、不思議で面白かったです。
やりたかった	<ul style="list-style-type: none"> ・英語がとても苦手でした。しかし、先生の授業は、手品を交えてやっていたのでとても面白くて、またやりたいという気持ちが高くて、とても楽しみにしていました。 ・また来年も授業を教えてください。 ・マジックや英語を教えてください。 ・またやってほしいなあと思いました。 ・できれば、来年もぜひ来て教えてもらいたいし、手品も見せてほしいと思いました。 ・もっと見たかったなあ、教えてもらいたかったと思いました。 ・もう少しだけでもやりたいなあと思いました。

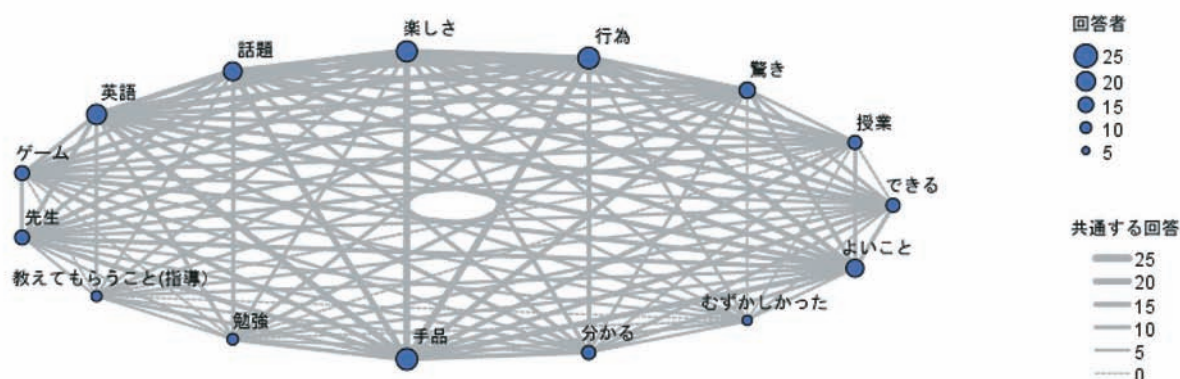


図2 テキストマイニングによるカテゴリーの関連性

Ⅵ. 教育的示唆と今後の課題

6.1 教育的示唆

平成23年度から平成26年度まで外国語活動に手品の活動を導入して英語のやりとりをした。今回は、平成23年度の1年間における外国語活動の授業の中で、英語を使いながら手品を導入した13回の授業実践についての報告である。手品の活動をする際に、外国語活動で既に使っている英語を使用しながら、児童との双方向のやりとりをした。「英語を見るのが楽しかった」、「手品に驚いた」、及び「手品を毎回楽しみにしていた」という回答から、多くの児童は手品自体に楽しさを感じていたことであろう。また、「手品をもっと見たかった」や「来年も楽しみにしている」という回答のように、手品の楽しみが外国語活動の楽しみと関連しているのであろう。外国語活動の授業の中で、手品の活動をとおして楽しみながら英語への興味・関心を促すことができるであろう。更に、外国語活動の授業の中で、手品の活動をとおして、英語を使用しながら児童と教師との間で楽しくコミュニケーションをとることができるであろう。

6.2 今後の課題

今回は、J 市立 M 小学校の協力の基で行われた外国語活動の授業に手品の活動を導入したものである。児童は、5 年生と 6 年生を合わせて計24名であった。小規模校ばかりでなく、様々な公立小学校の外国語活動の中にコミュニケーションの手段としての手品の活動を導入してもよいだろう。公立小学校の外国語活動の中で手品の活動を導入して、更なる手品の活動のあり方を検討していきたい。

本実践では、必ずしも『Hi, friends! 1, 2』の言語材料や言語項目に関連させた手品を実施しようとしたが十分ではなかった。そこで、『Hi, friends! 1, 2』の言語材料や言語項目に関連させた、教育として望ましい手品を分類していきたい。

次に、手品をとおしてコミュニケーションを促すばかりでなく、手品の活動をとおして考える力を育成していきたい。児童に手品の仕組みを考えさせるために、手品の準備を含めた教材研究・開発を進めていくことが求められるであろう。

謝辞：新潟県 J 市立 M 小学校で授業実践と調査をさせていただきました。協力していただいた J 市立 M 小学校に感謝致します。

注

- 1) 平成32年度から小学校高学年で英語は教科化となり、小学校中学年で外国語活動が実施されることになっている。平成23年度に実施したJ市立M小学校の実践を基に、教育実践論文としてまとめたものである。

参考文献

- 石濱博之・藤田英志. (2008). 『「だれでもできる」「役立つ」「楽しい」英語活動－学級担任主体の英語活動の取り組み－』上越教育大学・糸魚川市立西海小学校報告書.
- 石濱博之. (2013). 『上越市立牧小学校の外国語活動指導案集(平成23・24年度指導案集)』上越教育大学報告書.
- 石濱博之・渡邊陽介. (2013). 「外国語活動(英語活動)に「お寿司屋さんごっこ」を導入した授業の展開とその効果―「ごっこ遊び」で扱った寿司英語と扱わなかった寿司英語の学習成果に焦点をあてて―」『JES Journal』Vol. 13, 52－67.
- 石濱博之・山崎晃市・染谷藤重 (2014). 「『Hi, friends! 1, 2』の題材を応用した文房具を取り扱った「ごっこ遊び」の授業実践とその効果」『上越教育大学学校教育センター教育実践研究』第24集, 13－18.
- 石濱博之・山崎晃市・南雲威志. (2015a). 『上越市立牧小学校の外国語活動指導案集(平成25・26年度指導案集)』鳴門教育大学報告書.
- 石濱博之. (2015b). 「ある小学校の外国語活動におけるアルファベット学習の導入に関する事例報告」『上越教育大学研究紀要』第34号, 165－176.
- 梅本孝 (2010). 「マジックを利用した小学校英語教育の可能性について」『静岡産業大学経営学部研究紀要 環境と経営』第16巻 第1号, 37－45.
- 河合勝. (1991). 「教育に生かすマジックの実践的研究－その1」『江南女子短期大学紀要』第20号, 1－8.
- 河合勝. (1992). 「教育に生かすマジックの研究－マジックに対する園児の反応について－」『江南女子短期大学紀要』第21号, 1－12.
- 河合勝. (2004). 『マジックでコミュニケーション』東京：生活ジャーナル.
- 河合勝. (1999). 『マジックガイド (ダイジェスト版)』私家版.
- 熊田孝恒. (2012). 『マジックにだまされるのはなぜか「注意」の認知心理学』東京：化学同人.
- 後藤道夫. (1998). 『子どもにウケる科学手品77』東京：講談社.
- 後藤道夫. (1999). 『もっと子どもにウケる科学手品77』東京：講談社.
- 庄司タカヒト. (2013). 『頭がよくなる算数マジック&パズル』東京：中央公論新社.
- 東京大学奇術愛好会 (監修). (2009). 『東大式科学手品』東京：主婦の友社.
- 文部科学省 (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東京：東洋館出版社.
- 文部科学省 (2012). 『Hi, friends! 1』指導編』東京：東京書籍.
- 文部科学省 (2012). 『Hi, friends! 2』指導編』東京：東京書籍.

付録1：平成23年度 M 小学校高学年 外国語活動 活動案 No.6

1 日時 平成23年6月2日（木）3限（10：40～11：25）

2 活動内容 「誕生日はいつ？2」

指導者 時間	活 動 内 容	◇指導上の留意点 ◎評価の観点
担任2名 石濱先生 2分	1. あいさつをしよう。 A: Hello, everyone. B: Hello, ○○sensei. A: How are you? B: I'm fine, thank you. And you? A: I'm fine, too, thank you.	◎元気よく対話をしているか。
2分	2. 歌を歌おう ・“Hello” Song	◇動作をつけて元気に歌う。
5分	3. 復習をしよう。月の言い方を思い出そう。 January, February, ~ December	◎既習していたことを思い出せたか。 ◇グループ活動, ペア活動をさせる。
4分	4. 12月の歌を歌う。 January, March, October....	◇月の歌を歌わせる。 ◎声を出して月を言っているか。
5分	5. 「日の言い方」を知ろう。 1 st , 2 nd , ~ 31 st	◇英語の日の言い方を知る。 ◇カレンダーを使う。
5分	6. 練習をしよう。 グループで円になり, 手をたたきながら 「1 st , 2 nd , 3 rd , ...」と練習する。	◇グループになる。 ◇方法を確認する。
5分	7. 誕生日の言い方を知ろう。 A: When is your birthday? B: My birthday is October 9 th .	◇モデリングをする。
3分	8. Let's take a break. マジックを見る。	◇英語でやりとりする。
6分	9. グループ活動をする。 A: When is your birthday? B: My birthday is October 9 th .	◇モデリングをする。 ◇グループになり, 誕生日を聞いたり 答えたりする。 ◇できるだけたくさん練習をさせる。 ◎英語で誕生日を言っているか。
3分	10. 本時の復習をやってみる。 A: When is your birthday? B: My birthday is October 9 th .	◎英語で誕生日を言えたか。
5分	11. あいさつをしよう・振り返りをしよう。	◎それぞれ楽しく活動したか。

評価

1. コミュニケーションを楽しんでいるか（各種ゲーム）
2. 相手とコミュニケーションをしようとしているか（各種ゲーム）
3. 基本的な表現（誕生日）を使おうとしているか（グループ活動）

A Case Study of Introducing Magic Tricks into Foreign Language Activities as a Means of Communication

ISHIHAMA Hiroyuki* and YABUSHITA Katsuhiko*

(Keywords : Magic tricks, Children's Self-Evaluation, Foreign Language Activities)

The purpose of this paper is to introduce magic tricks into Foreign Language Activities. Magic tricks are valuable for teaching English to children, because they like to watch them. Magic tricks as a means of communication are also a useful tool for helping children promote their language development.

There are two objects to this research. The first object is to introduce magic tricks into Foreign Language Activities and to classify them according to the topics of the lessons. The second object is to clarify the effects of magic tricks from the viewpoint of children's self-evaluation.

The results of the research are as follows. Firstly, the children showed a favorable attitude to magic tricks and enjoyed them in Foreign Language Activities. Secondly, the children were interested in English through the magic tricks. Thirdly, the magic tricks used in English can help promote children's positive attitude toward English.

When carrying out Foreign Language Activities, we may introduce magic tricks into lessons as a means of communication.

*Language Education, Naruto University of Education